

神と云も、岐字濁りて讀べし、藝も濁音に用ふ字なり、
見たり、阿前編二、あき 秋をいふ、飽の義なり、百穀已に成て、萬民飽足の時なれば、まかいふめり、此

國を千秋長五百秋長○長字之瑞穂國と名づけたまひしも、其義成べし、安藝の國も同義なるに
や、

〔諸國名義考下〕安藝

和名抄に、安藝國府在名義は、鰓より負し名なるべし、同抄に、鰓阿木魚類也とあり、日本書紀、仲哀

天皇二年夏六月、皇后從角鹿發而行之、到停田門、食於船上、時海鯽魚多聚船傍、皇后以酒灑鯽魚、鯽魚即醉而浮之、時海人多獲其魚、而歡曰、聖王所賞之魚焉、故其處之魚、至于六月、常傾浮如醉、其是之緣也とあり、○中さて、此國に、安藝郡安藝郷あり、三代實錄には、安藝津彦神といふもあり、こも伊勢津彦伊賀津姫吉備津彦などの如く、此國に坐し故に然負せしならむ、

位置

〔地勢提要 乾〕各國經緯度 附里程

安藝廣島 堺町 極高三十四度二十四分、經度西三度一十七分、從東都同上道、自東海道川南村、福山街道、二百三十里一十二町一十四間半、

〔日本經緯度實測〕北極出地

安藝 廣島 三四度二四分〇〇秒

嚴島 三四度一八分〇〇秒○中

東西里差

山城 京 〇度〇〇分〇〇秒○中

安藝 廣島 西三度一五分〇〇秒

〔藝備國郡志上〕安藝形勝 西隣周防北環出雲石見東接伯耆備後南連伊豫西北枕山嶽之險東南帶江

海之阻

〔藝藩通志一〕安藝 疆域形勢

疆域